火山噴火予知連絡会幹事会　議事録

日　時：平成17年2月23日11時00分～12時45分
場　所：気象庁防災会議室
出席者：会　長：藤井（敏）
　　副会長：石原
　　幹　事：岡田、五十嵐、渡辺、平林、藤井（直）、上総、大城（文科省：代理）、中禮
　オブザーバー：平（内閣府）、土井（震研）
　　事務局：山里、小泉、舟崎、内藤、松島、新井

事務局から連絡事項

・代理出席について説明。
・承認済みの前回議事録を配布。

1．今年度の火山活動度レベルの導入について

レベル表等は内部向けHPに掲載している。2月1日から吾妻山、草津白根山、九重山、霧島山、薩摩硫黄島、口永良部島、諏訪之瀬島の7火山について、火山活動度レベルを導入した。後4年で常時観測火山を中心に25火山をレベル化する予定。来年度における火山活動度レベル導入火山は未定であるが、東北は岩手山を予定しているようだ。北海道駒ヶ岳は、地元との調整があり今回は見送った。また、三宅島については火山ガスのレベルの問題もあり見送った。（気象庁）

<質疑>

・三宅島はどのような問題があるのか。
・後で説明があるが、火山ガス濃度に沿った行動指針である「レベル」があり、それと混同する可能性があること。火山活動度で見るとレベル2になるが、防災対応はレベル3若しくは4の対応をとっており、その辺の地元との理解を深めるための協議が引き続き必要と判断した。
・防災対応とどの程度リンクさせるか。あまりリンクさせると気象庁が地元の政治判断まで踏み込まなければならなくなるのではないか。各レベルでのリスクについてきちんと伝えることが重要で、あらゆる想定でレベルを作るのは無理であり、参考基準にすぎない。浅間山でレベルが導入されていることで、レベル3＝4km規制だけで十分であるという地元に安易な意識があるように見える。
・鹿児島県の場合は、地域防災計画に活動に応じた対応が明記してあり、レベルは参考にしている。参考意見として使ってもらうのがいいだろう。
・浅間山の場合でも地元から細部の防災対応について相談を受けたときには助言している。傾斜変化等、活動に変化がある場合にはそれなりの対応をお願いしている。
・運用する火山がこれから増えていき、いろいろな問題が出てくるであろうから、その都度改善してよりよいものにしていけばよいと思う。

2．三宅島帰島後の状況について

・2月1日に避難指示が解除された。火山ガスに関してレベルが設定してあり、それぞれの対応が定められている。これまでの警報発令の状況は2月20日までに、レベル3は53回、レベル4は1回あった。（内閣府）
・昨年から風予報、火山ガスが流れてくるおそれのある地域、濃度が高まるおそれのある地域等の情報について1日2回発表している。また、1月19日から測候所職員は東京都現地災対本部から（三宅島）測候所に移り、現在4名（うち1名は火山課から）で勤務を行っているが、2月末を目処に6名とし、気象観測通報を再開する。4月から

は全9名（うち2名は火山担当）での業務を行い、夜間勤務も併せて行う。測候所には火山観測装置の端末を設置し、地上からのトラバース法によるガス観測を行っていく。観測情報は当面1日2回。村への連絡は東京都からが基本だが、三宅村にも連絡を行っている。(気象庁)

<質疑>

・高感受性者は何人くらい帰島を希望しているか。

・村では把握していると思われるが、正確なところはわからない。

・マイクロ気象で詳細なガスの予測はどの程度できるか。

・検討はしたが難しいようで、測候所がこれまで行ってきた火山ガス濃度の繰り返し観測結果をもとに、上空の風予報から予測をしている。風が強い時に濃度が高くなりやすいようだ。このようなデータについては、東京管区気象台がとりまとめている。

・八丈島測候所発表となっているが、三宅島測候所が再開されれば三宅島測候所発表となるのか。

・気象の予報は八丈島測候所が行うことになっている。

3．三宅島総合観測班の入島手続き等について

・火口周辺の立入禁止区域、鉢巻道路より内側の危険区域、高濃度区域の3つの区域に立ち入る場合は事前登録及び申請が必要だが、各機関別に入島者を年度毎にまとめて連絡いただき、総合観測班として一括して登録、申請を行うことで村と合意している。入島毎の手続きとして、出張行程表を事務局宛メール送付頂きたい。民宿の予約について、今年度についてはこれまで通り観光協会による斡旋、4月以降については未定である。

<質疑>

・総合観測班以外が規制区域への立ち入りを行う場合はどうなるか。

・条例通り、村に直接申請してもらうことになる。事前登録等が十分周知されているかどうかは不明である。

・船着き場等に何か注意事項が表示されているか。

・内閣府の方で都、村と相談していただきたい。

4．集中総合観測及び火山体構造探査について

・御嶽山集中総合観測

データは現在取りまとめ中であり、今年いっぱいまでにはデータ集のようなものを作成したい。一部は昨年秋の学会で発表しており、合同学会でも発表の予定。また、HPへの掲載を行っており頻繁に更新している。

・口永良部島構造探査

昨年10月31日～11月8日に実施。19ヶ所で発破、観測点は165点。11月5～6日に火山性地震の多点観測を実施した。一次的な記録読みとり結果をもとに、合同学会で最初の報告の予定。また、11月6日に島民向けの「火山防災セミナー」を行い、住民約30名が出席した。

<質疑>

・特になし。

5．気象庁の噴火記録基準について

・火山毎にバラツキが大きくなっている噴火の記録基準を、固形噴出物が火口(噴出場所)から100～300m（前回の資料では100～200m）を超えた場合に噴火とする、という方向で考えている。小さなものまで噴火というのは防災上好ましくないが、規模表現をきちんとすれば問題は少ないと考えている（例：浅間山の微噴火など)。資料のうち、細目についてはこの後も少し修正し、気象庁の火山観測指針に掲載する予定。活火山総覧の記事の表現方法については、今回の基準に沿って見直したい。

<質疑>

・1991年の御嶽山の場合は、山頂が1週間以上見えなかったが後日の調査で噴出物が確認された。あの場合はどうな

るか。
・火口から 100m 程度で今回の基準ではギリギリで、噴火としていない。細かく事前に決められないので、そのような場合は個別に考えることにしたい。
・重要なことは、「噴火ではない」と主張しないことである。

6．日本活火山総覧第3版の進捗状況について

・これまで委員の方をはじめたくさんのご意見を頂いており、修正を行っている。最新版は内部向けHPに掲載している。今後細かい修正を3月上旬までに終わらせ、今年度中に印刷を行う。
　刊行後、委員の方、防災機関、火山周辺自治体に配布される。販売については現在調整中であるが来年度、気象業務支援センターから行う予定、価格は未定。総ページ数は、当初見込みより多くなり640ページ程度。CD-ROMが添付される。完成後、気象庁HPの活動履歴も更新する。

<質疑>

・特に噴火履歴の部分について、外国の研究者も興味があろうことから、気象庁HPも英語での掲載を行うと非常に良い。

7．予知連30周年記念事業「最近の火山噴火予知連絡会10年のあゆみ」について

・一部原稿が未提出の部分があるので、今月末までには提出をお願いしたい。今年度中に刊行の予定である。

<質疑>

・特になし。

8．浅間山の統一見解（案）について

・11月に国土地理院がSAR観測を行って以来、実施されていないが、目視等による観測により「10月以降火口底の深さはわずかに深くなっている傾向も見られますが、大きな変化はありません。」との表現を使用した。
・「火口周辺の地殻変動データには大きな変化は見られません。」という表現について、火口周辺の地殻変動は光波測距のデータによるが、傾斜計のデータも火口周辺の地殻変動に含め大きな変化なしと考えて良い。
・火山性地震や微動の活動について、1973年の噴火後の活動と比較すると低下の傾向が鈍い。また、火山ガスの放出量についても2,000～3,000トンを維持している。
・「大規模な噴火」が切迫するとどのようなことがおこるか。
・地震活動の活発化、地殻変動等が考えられる。
・「噴石」という言葉をあいまいに使っているところがある。投出岩塊という意味か、風によって遠くに流されたものを含むか、といった部分に曖昧さがある。
・「噴石」は一般にはわかりやすい通じるいい言葉だと思う。投出岩塊か否かははっきり分けられないので、防災上の用語として噴石を使えばよい。
・浅間山のレベル判定について、火山ガス及び噴煙の低下、火山性地震や微動の活動が明白に低下しなければ、レベル2に落とすことは困難と考える。また、一般的にレベルを下げる目安として、ある一定の活動以下となる状況が1ヶ月以上継続することを想定していた。
・浅間山は今後レベル2に下げるタイミングはどのようなときか。
・地震活動や噴煙活動、火山ガス放出量に低下傾向が見えた段階ではないかと考えている。深部の地殻変動については、短期的な活動評価という意味ではあまりこだわらなくていいと思っている。
・頻繁にレベルを上げたり、下げたりした方がいいのではないか。
・統一見解案については、案文の変更は行わずこのまま案として提示することとする。

9．その他連絡事項

・午後1時から連絡会を予定通り実施する。浅間山については「統一見解」の発表を行う方向で、三宅島については「全国の火山活動について」で評価する。各火山の活動については、今回は南から順に検討を行う。午後5時半（予定）から記者会見。

・記者会見終了後、第100回記念の懇談会を予定している。